

有限会社加藤七宝製作所
顧問

加藤 勝己さん

経済学部1971年卒業。日展(日本画)の会友・片山宏先生に4年間師事。卒業後、(有)加藤七宝製作所に入社。2009年に伝統工芸士に認定される。現在は同社顧問。名古屋市西区在住。

伝統工芸
×
職人の心意気

学生時代について教えてください

高校生の頃は日本画家になりたかったんです。美大受験を認めてもらうために絵具鞆だけを持って家出をしたことも。しかし、父からは許しが出ず、名古屋学院大学へ進学。4年間、授業そっちのけで美術部員として絵を描き続けたことで、七宝の道へ進むことに抵抗はなくなりました。美術部は最初同好会だったのですが、私が4年生のときに念願のクラブに昇格。当時、部長として「部員がどうしたら絵を描きにきてくれるのか」を一生懸命考え、人の心とはどう動くのかをじっくり見つめた経験が、今の私につながっていると感じています。

七宝の道を選んで良かったことは？

作ったものがお客様に認めてもらえることが一番力になります。また、七宝焼は1つひとつ手作りのため、作った人の手あとが残ります。色も自分で調合するので、同じものでも色合いが少しずつ違ったりする。自分の作品を後から見ると、色を差したときの情景が浮かんでくるんですよ。それがいいですね。七宝焼は衰退の一途をたどる伝統工芸の1つなのですが、今では私たちの一番大事な仕事は、七宝焼を後世に残し、技を伝え継承していくことだと思っています。

今後の目標を教えてください

息子に会社を任せた2年前から、いつかは個展を開いて皆さんに見ていただきたいと、日曜以外の毎日10時間集中し、手間を惜しまず、妥協をせず、美術品を作ることに全精力を注いでいます。私は目が見え、指が動く限り、七宝を作り続けます。個展に向けてがんばりますので、開催の折にはぜひ見に来てくださいね。



目が見え、
指が動くかぎり、
七宝を作り続けます

加藤さんのお仕事を拝見!



七宝焼は1つ制作するのに2・3ヵ月はかかるのだとか。完成までに7度窯に入るのだそう



加藤さんの作品の一部。細やかな仕事ぶりが伺え、美しく存在感のある作品ばかり